

2026 年 1 月 30 日

ADK マーケティング・ソリューションズ、東京都現代美術館の企画展
「ミッション∞インフィニティ | 宇宙+量子+芸術」に理研 iTHEMS と制作した
サイエンスアート作品「Black Hole Recorder」を出展
～2026 年 1 月 31 日(土)－ 5 月 6 日(水・振休)～

株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズ(本社:東京都港区、代表取締役社長:大山 俊哉、以下「ADK MS」)は、東京都現代美術館の企画展「ミッション∞インフィニティ | 宇宙+量子+芸術」において、理化学研究所数理創造研究センター(以下「理研 iTHEMS」)の依頼により制作した、量子ブラックホール理論に基づくサイエンスアート作品「Black Hole Recorder(ブラックホール・レコーダー)」を 2026 年 1 月 31 日(土)ー5 月 6 日(水・振休)の期間、展示します。



「Black Hole Recorder」は、量子ブラックホールに関する研究に着想を得て遠い未来を空想した、人工ブラックホール搭載の蓄音機型デバイスです。月の質量に相当する物体を約 0.1mm の大きさに圧縮した人工ブラックホールに、理論上約 10 の 52 乗ギガバイト(10 那由他バイト)のデータを録音したり、蓄えた情報を取り出したりできる、遠い未来の大容量ストレージのプロトタイプ(模型)となります。このサイエンスアート作品は、理研 iTHEMS の依頼に基づき、ADK MS、ADK クリエイティブ・ワンなどのクリエイターが製作しました。

この度、宇宙や量子などのサイエンス領域とアートのコラボレーションを通して「世界の成り立ち」や「見えない世界」について考える「ミッション∞インフィニティ | 宇宙+量子+芸術」で、最新テクノロジーを絡めたアートを身近に感じていただくために、本作品の体験型展示を行うこととなりました。

【「Black Hole Recorder」とは】

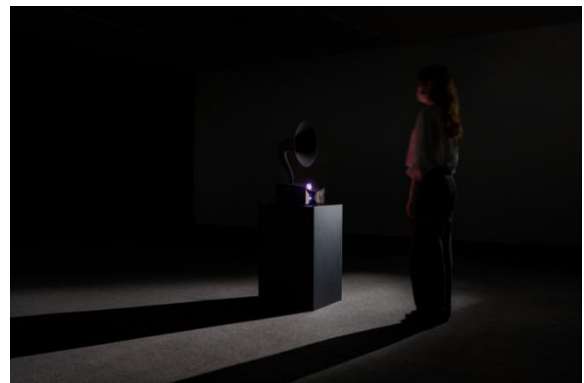
「Black Hole Recorder」は、ブラックホールを制御し、情報を蓄積できるデバイスとして利用する未来を見据えて開発された、ブラックホールストレージのプロトタイプ（模型）です。蓄音機をモチーフに、膨大なデータを録音することができるデバイスという設定です。また大容量の情報を蓄えるだけでなく、取り込んだ情報を取り出すことも可能です。



人間は、数千年前に文字を発明して以降、情報を記録する媒体と技術を紙・印刷・写真・蓄音機・映像・データと進化させてきました。近年、どれだけ大量の情報を蓄えられるかの開発がされています。そして将来、ブラックホールを情報ストレージとして活用し、ポケットに入れて持ち運ぶ時代の可能性が考えられます。

【作品概要】

今回の展示はひとつの実験空間となっており、会場の音は常に録音され、全て Black Hole Recorder に記録されていきます。人類の音をはるか未来に届けるべく、将来的には展示会場で記録された音を約 1,500 光年先のブラックホールに電波で送信することを目指しています。今回の作品展示では、量子力学から「ブラックホール情報パラドックス」を考えると、いつか、宇宙の彼方に実在するブラックホールに私たちの声を保存するような未来が訪れるかもしれない、という未来の可能性を体感いただける内容となっています。



【Useless Prototyping Studio について】

本作品は、理研 iTHEMS が立ち上げたデザインスタジオ「Useless Prototyping Studio（ユースレス・プロトタイプイング・スタジオ）」が製作しました。このスタジオは、科学と世界の新しい関係づくりを目的に、一見役に立たないけれど人の心をインスパイアするプロトタイプをつくる活動を行っています。科学者の「未知への好奇心」から導き出された科学的理論・仮説をもとに、それらが未来を一変させる可能性を空想して、プロトタイプとして具現化することで、科学が持つ未来へのポテンシャルを可視化します。本スタジオの第一弾には、ADK MS、ADK クリエイティブ・ワン、クリエイティブ・ブティック「SCHEMA」および「addict」などが参画しました。

【「ミッション∞インフィニティ | 宇宙+量子+芸術」開催概要】

主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

会期:2026 年 1 月 31 日(金)~2026 年 5 月 6 日(水)(83 日間)。

場所:東京都現代美術館 企画展示室地下 2 階、ホワイエほか

開催趣旨:

国連宣言による国際量子科学技術年(2025 年)にあわせて、宇宙や量子などのサイエンス領域とアートのコラボレーションを通して「世界の成り立ち」や「見えない世界」について考える企画展を開催いたします。

科学者らによる宇宙研究と、アーティストによる宇宙をテーマとした作品群に加え、国産の「量子コンピュータ」による初のアート作品など、「時と空間」が不思議なふるまいを見せる「量子」の領域に取り組む、新たな表現の可能性を紹介します。

今世紀に入り、宇宙と芸術に関する企画展が次々と開催されました。「理想郷としての宇宙／身近になる宇宙」、「アーティストによる宇宙／リアルな宇宙」、「歴史的視点から見た宇宙」等をテーマとした美術展に加え、近年は国内外のサイエンス・ミュージアムでも、アーティストによる作品が展開されています。

本展では、次世代へ向けて「量子的なセンス」の重要性について問いかけた「エンタングル・モーメント―[量子・海・宇宙]×芸術」展(大阪・関西万博、2025 年)の試みをふまえ、宇宙開発による「物理的宇宙」の探求のみならず、多元宇宙や量子宇宙の世界観を作品表現や技術・資料展示を通して取り上げ、我々をとりまく世界をアートとサイエンス領域から考察します。また、芸術領域を含む人文社会科学から宇宙をとらえる視点をもとに、アーティスト・イン・レジデンスを実践する国内外の研究機関の協力を得て、その成果を展示します。リアルインスタレーションに加え、XR 展示やメタバース上の展開など重層的な展示を行い、研究者とアーティストの対話を通して「量子ネイティブ」な創造的思考・アイデアのヒントを探ります。

HP:<https://www.mot-art-museum.jp/exhibitions/mission-infinity/>

【制作の経緯】

高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 理論センター 特任助教 横倉 祐貴(よこくら ゆうき)氏が、理化学研究所 数理創造プログラム(iTHEMS)所属時の 2020 年 7 月 8 日に発表した「蒸発するブラックホールの内部を理論的に記述ーブラックホールは未来の大容量情報ストレージ?ー」

(https://www.riken.jp/press/2020/20200708_3/index.html)の理論にインスパイアされ、クリエイターがブラックホールを大容量情報ストレージデバイスとして活用する未来を空想し、その未来の可能性を機能と仕様としてデザインし制作したものです。

本プロジェクトでは、「Useless Prototyping Method(ユースレス・プロトタイピング・メソッド)」という、下記の 3 つのステップに基づく独自メソッドを活用して、科学的理論・仮説が持つ未来へのポテンシャルを可視化していきます。

【Useless Prototyping Method】

本スタジオでは、「Useless Prototyping Method」という、下記の3つのステップに基づく独自メソッドを活用して、科学的理論・仮説が持つ未来へのポテンシャルを可視化していきます。

＜Step 01＞仮説/Theory

まず、未知への好奇心から科学者が導き出した科学的理論・仮説を選ぶ。

＜Step 02＞空想/Imagination

次に、基礎科学の仮説が未来を一変させる可能性を空想・イメージする。

＜Step 03＞具現/Prototyping

そして、空想した未来から1つの可能性を具現化・プロトタイピングする。



このメソッドの特長は、「一見役に立たないプロトタイプ」をつくるプロセスからインスピレーションを得ることを目的としている点です。未来を一変させるかもしれない新しい理論・仮説も、いまはまだ何の役に立つかわかりません。そこで、サイエンティストとクリエイター・デザイナーが手を組み、その無限の可能性をカタチにして、科学と世界の新しい関係づくりを目指すために、このメソッドは考案されました。

＜理化学研究所 数理創造研究センター(iTHEMS)概要＞

理化学研究所 数理創造研究センター(iTHEMS)は、基礎科学のさまざまな分野の研究者が集まり、「好奇心」を軸に分野横断的に議論し、基礎科学の未知の研究活動を推進する国際研究拠点です。

- ・理研 iTHEMS ウェブサイト <https://ithems.riken.jp/ja>
- ・「Useless Prototyping Studio」ウェブサイト <https://uselessprototyping.jp/>
- ・「Black Hole Recorder」ウェブサイト <http://uselessprototyping.jp/blackholerecorder/>

＜株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズ 会社概要＞

マーケティング領域全般における統合的なソリューションをフルファネルで提供。2021年に始動した事業ブランド「ADK CONNECT」がフラッグシップとなり牽引するデジタル&データドリブン・マーケティング領域では、専門性の高いスペシャリストが組織横断で集結し、クライアントのビジネス成果に貢献する「価値ある顧客体験」をご提案します。

- ・ADK MS ウェブサイト <https://www.adkms.jp/>

本件に関する問合せ先

株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズ
EX クリエイティブ本部/SCHEMA 小塚、BX デザイン本部 児玉
<https://schematokyo.com/> SCHEMA サイトの「CONTACT」よりお問合せください。
株式会社 ADK ホールディングス
経営企画本部 広報局 PR・マーケティンググループ 内山/根岸 e-mail: mspr@adk.jp